

研究紀要 第205号

令和元年度（2019年度）

茨木市教育センター研究紀要



茨木市教育センター

はじめに

茨木市教育センターは、平成 29 年度から「教育課題研究会」という新たな形態で調査研究事業に取り組みました。令和元年度は、「情報教育」、「支援教育」、「理科教育」、「英語教育」、「道徳教育」の調査研究を行い、その成果を令和 2 年 2 月 19 日に実施した第 7 回茨木市教育センターフォーラムにおいて報告することができました。そのときの報告内容に、詳細な資料を付け加えたものが、今回の研究紀要となっております。

さて、来年度から新学習指導要領が全面実施となり、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりや、外国語教育、プログラミング教育などにどのように取り組むかが、学校教育における喫緊の課題になっております。

そのような中、本市では、今年度に最終年度を迎える第 4 次 3 ヶ年計画「茨木っ子グローイングアッププラン」～「一人も見捨てへん」教育～ の成果を踏まえ、来年度から、第 5 次計画「茨木っ子プラン ネクスト 5. 0」に取り組んでまいります。このプランは、新学習指導要領の理念を踏まえて、「一人ひとりの子どもに、これからの社会を生き抜く力を育成すること」「様々な困難を乗り越え成長する力を育成すること」等をめざすものです。

本紀要は、研究員である教員が、新学習指導要領を踏まえた授業づくりを研究し、自ら試行錯誤しながら実践した、成果と課題の報告です。本市が大切にしている「一人も見捨てへん」教育や、これからの社会に必要な教育を推進するためのヒントが随所に詰まっております。今後、多くの方々にこの紀要をご高覧いただき、各校園において特色ある取組みに活用していただければ幸甚です。

終わりにになりましたが、この研究を進めるにあたり、ご尽力いただきました各部門研究会の先生方並びに、ご指導・ご助言をいただきました情報教育の堀田博史先生、理科教育の黒上晴夫先生、英語教育の竹内理先生、支援教育の伊丹昌一先生・森田安徳先生、道徳教育の荒木寿友先生に厚くお礼申し上げます。

令和 2（2020）年 3 月

茨木市教育センター
所長 足立 英幸

目 次

I. 調査研究活動の概要

II. 情報教育研究

III. 理科教育研究

IV. 英語教育研究

V. 支援教育研究

VI. 道徳教育研究

I. 調査研究活動の概要

《情報教育》

小学校2校、中学校2校を「学校情報化推進校」として、授業におけるICT機器活用や情報モラル教育の推進及び、校務の情報化についての研究と実践に取り組んだ。

古宮 純太 東田 薫 北垣 翔太 大門 勝法 藤田 隼輔
山川 純平 増田 ゆきみ 三津本 修
アドバイザー 園田学園女子大学 教授 堀田 博史 氏

《理科教育》

理科教育全般にわたって授業に役立つ実践的な研究を行った。本年度は大阪府教育センターで理科の長期研修を受講した研究員が講師を務める研修を行い、その研修を受講した研究員がモデル授業を行い、市内小中学校へ理科の授業づくりを発信した。

木村 竜哉 木口 亜希 木村 幸司 多田 善一 向井 匠
小竹 佑治 松木 優 杉本 紗帆 久田 達彦 平川 紗帆理
アドバイザー 関西大学 教授 黒上 晴夫 氏

《英語教育》

新学習指導要領を踏まえて、小学校における外国語活動・外国語科の授業づくりや帯学習、小学校での実践を踏まえた中学校における外国語科の授業づくりや小学校と中学校の連携等のテーマで、専門家の指導を受けながら研究を行った。

兵頭 裕子 堀切 あおい 遠藤 一翔 北川 章子 吉田 元樹
アドバイザー 関西大学 教授 竹内 理 氏

《支援教育》

専門家の指導助言を受けながら、通常学級における支援教育の視点を取り入れた授業づくり『授業のユニバーサルデザイン化』を共通テーマに、校内支援体制のあり方や個別の指導計画・教育支援計画を含めた引継ぎシステムの充実、支援ツールについて研究を行った。

堀 玲奈 山本 靖子 西島 葉子 岸田 風花 荒木 正大
羽原 裕輔 菅野 徹
アドバイザー 梅花女子大学 教授 伊丹 昌一 氏
元神戸親和女子大学 准教授 森田 安徳 氏

《道徳教育》

「特別の教科 道徳」の実施にあたり、授業のあり方や評価、校内体制について、所属校において実践的研究と実践を行った。

武田 友美 古川 大吾 榎木 悠太 荒井 香苗 井上 湧義
アドバイザー 立命館大学 教授 荒木 寿友 氏